

WE しもやま
LOVE

初夏のしもやまの里山を満喫！

田植え体験を通じて環境保全と交流を実施

6月1日（土）、しもやま里山協議会が田植え体験を開催し、地区内外から160人が参加しました。

このイベントは、自然・生態系が調和・共存できる里山環境の保全と地域交流を目的に、トヨタ自動車（株）との共催で実施しているものです。当日は、トヨタテクニカルセンター下山の敷地内にある田んぼで参加者が手植えを行いました。

最初のうちは、田んぼに足を踏み入ると「泥の感触がヌルッとして気持ち悪い」という声がありましたが、徐々に慣れてきて、苗をきれいに植え付けていました。また、田植え機に初めて乗ってピースサインをする子どもに、笑顔を見せる親の姿もありました。

田植え体験の後は、地元の方が作ったミネアサヒのおにぎりや豚汁の昼ごはんを食べながら、参加者と地元の方と交流を深めていました。

参加者からは、「手植えの大変さや農家さんの苦労が体験できてよかった」、「おにぎりのお米がおいしい！ミネアサヒのお米を買って帰ります」と笑顔で話をしていました。

今後は木工教室、稲刈りや炭焼き体験を開催します。

【問合せ】しもやま里山協議会事務局（豊田森林組合）



▲田植え体験の様子



▲ミネアサヒのおにぎりや豚汁を味わう様子



▲田んぼをバックに全員で記念撮影



わくわく事業補助金の2次募集 ※7月24日（水）まで

下山支所では、令和6年度わくわく事業補助金の2次募集を行います。

募集要項や日程などの詳しい情報は、豊田市ホームページを御確認ください。

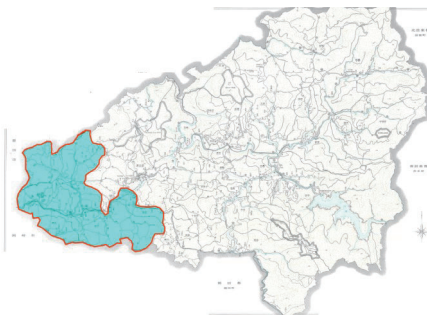
▲募集要項、日程などの
詳細情報



下山地区自治区紹介（自治区リレー 花山）Vol.1

下山地区は7の自治区に分かれています。自治区では様々な活動が行われ、それぞれの魅力があります。第1回目は花山自治区を紹介します。

花山自治区…下山地区の西の玄関口。全7自治区の中で最多の世帯数で（672世帯、令和6年4月時点）、6の組から成っています。



今回は、花山自治区の役員会にて、区長と組長方にお話を伺いました。

Q.花山自治区はどのようなところ？

花沢1組長：まず歴史として、花山自治区は、平成の市町村合併の際にできました。花山の名前は、下山村の花沢地区と下山地区（旧額田）が一つになったときに両地区の名前から1文字ずつ取ったと聞いています。

下山田代組長：花山は、他の地区から見ると人口が多いというイメージがあるかもしれませんが、少子高齢化が進んでいて、今は子どもから高齢者まで、皆が安心して暮らしやすい地域づくりが大事だと思っています。



▲役員会集合写真

花沢3組長：花山は結束力が強いと思います！6月のマイタウンおいでんも、花山自治区として3年連続で出場を決め、練習は大変ですが皆でやると気持ち良いものでした。

Q.花山自治区プランはどのようなプラン？何してるの？

花山自治区プランでは、4つの取組を、花山自治区特別委員会（各組から委員選出）が多角的に進めています。取組の一例として今回は、区民に直結した事業の立案・計画等を行う「区民部」が主導している、「区民が自治区活動に参画したくなる地域づくり」の活動を紹介します。

目安箱の設置

自治区事務所に目安箱を設置し、自治区の活動に対して、誰でも、意見や考えを投函可能に！

花山ちょこっとパートナー

花山自治区で活動している関係団体、個人をLINEグループでつなぎ情報を共有。ボランティア等の募集も行う。

花山版わくわく事業

住民や団体が行う花山自治区のための活動に対し、5万円を限度に補助・支援する。



▲活動団体・里山のおうち

自治区から一言！今回は区長からのメッセージ！

花山自治区長の加藤です。花山は世帯数も多く、地理的にも広い自治区です。組長や班長はじめ、花山のまちづくりために一生懸命動いてくださり、改めて感謝申し上げます。

トヨタテクニカルセンター下山が4月から本格稼働しましたが、花山自治区だけの話ではなく、下山地区全体の話として、地域と自然、企業が共存共栄できるように皆で考え、動いていきましょう。



わくわく事業団体紹介 NPO法人下山わくわくファーム

事業名：下山を好きになってもらう下山体験教室の開催

事業概要：下山ならではの体験プログラムを催し、地区外の方に下山を知ってもらう。交流を重ねていく中で、継続的に下山と関わる関係人口や、下山を好きになり、移住定住して一緒に生活する仲間を増やして、皆で暮らしやすい地域づくりを行いたい。活動初年度は春夏秋冬の下山を体験できる教室を開催。

祖父江奈々子さん（代表）からのヒトコト：6月9日（日）に第1回の下山体験教室を実施しました。下山で命をいただく体験として、実際に参加者の前でシカを解体しました。スーパー等でお肉が並ぶまでの過程、命や自然の大切さを皆で感じられたと思います。その他にも、家畜の世話やたい肥作り、五平餅づくり体験を行いました。下山名物の五平餅を食べた子どもたちは、顔中に味噌をつけて堪能していました。この事業と一緒に運営してくれる住民スタッフも絶賛募集中です。野菜作りが得意という方や子どもが好きという方、一緒にやってみたいと思う方は以下の団体HPから、ぜひご連絡ください！

●次回下山体験教室（夏季）

日時：8月3日（土） 参加費：1,000円

内容：竹を組み立てるところから挑戦する流しそうめんや、マスのつかみ取りとさばいて食べる体験！



▲下山体験教室申込フォーム

▲団体ウェブページ



▲第1回下山体験教室の様子（シカの解体）



トヨタ工業学園生徒が学ぶ「食育事業」

5月31日（金）、6月3日（月）にトヨタ工業学園の生徒が三巴地区の田んぼにやってきました。理由は、普段当たり前口にしているお米が、農家さんの手によってどれだけの苦勞がかけられているのかを学ぶためです。講師を務めたのは、下山で環境保全型農業（農薬や化学肥料を使わない農法）をされている倉地雅博さんです。体験前に、倉地さんからお米が収穫できるまでの工程や収穫したお米の流通開拓などの講義があり、生徒は真剣な面持ちで、苦勞された体験談などに驚きの表情を見せながら受講していました。



▲田植えを教わる生徒

講義後は、実際に田んぼに入って田植えをしました。田んぼへ足を入れる際には緊張していた生徒達も、慣れてくると声をあげて楽しく体験していました。生徒達に感想を聞くと「たくさんの苦勞があってお米を食べることができている。これからは感謝の気持ちをこめて頂きます」と笑顔で返してくれました。今後も草刈りや稲刈りといったお米収穫までの体験のほか、野菜作りが予定されています。

下山の自然あれこれ「⑪下山とササユリ」

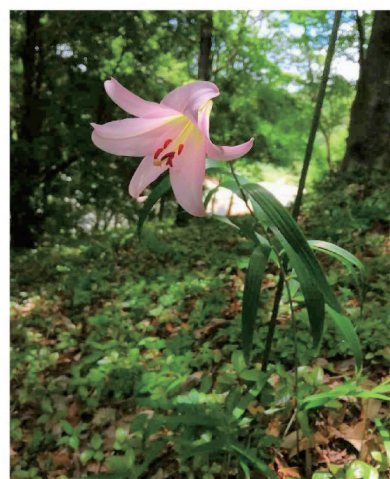
今月号は、満を持して「ササユリ」を取り上げます。ササユリは、言わずと知れた下山村の花。かつて下山全域に広く見られ、村時代には「村の花」に指定されていました。

ササユリは、下山地区では6月頃、上空に向かって伸びた茎の先に、漏斗形の花を横やや下向きに付けます（写真）。花びらは6枚の淡紅色～白色で、長さ10cm程度の大きな花は林内でひときわ目立つ存在になります。清楚で上品な姿から「ユリの女王」と呼ばれており、林内でばったりとこの花に出会えると、「おおっ！」と思わず感激の声が漏れてしまうほどの美しさです。

ちなみに、羽布町の手づくり工房「山遊里」は、ササユリの地域名「ヤマユリ」から付けられたものです。

ササユリは日本固有のユリで、本州では静岡県以西、四国・九州に広く分布します。山地の草原や明るい林内など、比較的開けた場所を好んで生育します。かつての日本では、芝刈りや薪取り等で住民が付近の里山を定期的に伐採し、開けた明るい場所を作っていたことで、ササユリが生育することができました。日本の里山文化が、ササユリの生育地と、そしてササユリ自体を守ってきたと言えるでしょう。

しかし、里山文化は今ではほとんどなく、近年はシカによる食害も広がり、ササユリが絶滅寸前という地域もあります。下山地区にも保護活動の取組はありますが、地区全体でササユリを守っていききたいですね。

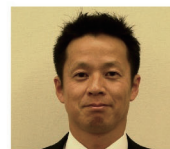


▲ササユリの花（下山支所横）



連載コラム「せつつが行く！ Vol.14」

森の風に癒されて 森ヨガ体験会を開催



5月25日（土）、湖から心地よい風が吹き抜ける三河湖園地の森で「森ヨガ体験会in三河湖園地」を開催し、市内外から多くの方に参加いただきました。3年目を迎えたこのイベントはリピーターも多く人気のアクティビティです。まず、森の散策では、葉の香りや味、手触りを感じ、鳥の鳴き声や水面を跳ねる魚の音を聞き、流れ込む沢に足をつけて水の冷たさを感じたり…五感で三河湖の自然を感じていました。

森を抜け、ヨガ会場の見晴らしテラスに到着。目の前に広がる三河湖の絶景と心地よい風を受け、ひと休みしたあと、いよいよヨガ体験がスタート。下山在住のヨガ講師大島亜美さんの元気で健康的な姿と優しい声とともに、参加者は身体の様々な部位に意識を向け、新鮮な空気を身体に取り入れながら心地よい汗を流しました。

ヨガ体験後には、下山産ミネアサヒのおむすびと特製コロッケを食べながら、初見の参加者同士で会話がはずんでいる様子が印象的でした。参加者は「初めましての方たちが集まっているのに、イベント全体で仲良くなれる雰囲気があり素晴らしかった」「自然に囲まれた中でのヨガはリラックス効果が高まります」と話していました。下山の大切な財産である三河湖の可能性を改めて感じました。



▲最高のロケーションでのヨガ体験の様子



今回は、ミンミンさんの戦績とレースで大変なことについて話を伺いました。

Q：今までのミンミンさんの主な戦績を教えてください。

A：名前が長いですが次のとおりです。

- 2023 JAF中部・近畿ラリー選手権 シリーズチャンピオン
- 2023 JMRC中部ラリーチャンピオンシリーズ チャンピオン
- 2022 JAF中部・近畿ラリー選手権 シリーズチャンピオン
- 2021 JMRC中部ラリーチャンピオンシリーズ チャンピオン



本名：洪銘蔚（ホン・ミンウイ）
下山地区在住のラリードライバー
豊田市わがまちアスリート

Q：何度もチャンピオンに輝かれていますね。今年の試合予定は？

A：6月のいなべラリーから参戦します。今年からマシンが変わって不安も多いですが、チャンピオン目指して頑張ります！

Q：レース中に最も過酷と覚えることは何ですか？

A：暑さとの戦いですね。いつも着ているレーシングスーツが本当に暑いですが！
レース中は車の馬力が落ちちゃうので冷房も切っています。外気温が30度近いと、車内気温が70度になることもあります。

Q：想像しただけで過酷ですね。なにか熱中症対策をしていますか？

A：夏場は、普段から暖房をつけて運転することで身体を慣らしています。暑いのは大変だけど、スーツは車両火災から身を守ってくれる役割があるから大事です！



▲チャンピオンに輝いたミンミン

【今回の学び】

取材を通して、レースを走り切るために過酷な練習を積んでいることを知ることができました。鍛え上げられた強靱な精神力で走り抜けるミンミンさんを皆で応援に行きませんか？ なんと最終戦は、10月12日～13日に豊田市の稲武地区で開催されます。詳細は、『シロキヤラリー2024』で検索してください。

下山地区データ



人口
3,971 人
(-73)



男性
1,975 人
(-33)



女性
1,996 人
(-40)



(6月1日現在)
※()は前年同月比
世帯数
1,639 世帯
(-3)

発行情報

編集・発行

豊田市役所下山支所（〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1）

毎月15日発行

お問い合わせ

TEL 0565-90-2111 FAX 0565-90-3344

MAIL shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp

地域記者を募集中！あなたの伝えたい地域情報を掲載しませんか！





〔 社協下山支所だより 〕

まどいの丘



住所：豊田市神殿町中切7番地2

TEL:0565-90-4005 / FAX:0565-90-2419 / MAIL:shimoyama@toyota-shakyo.jp



まどいの丘デイサービスの活動紹介

まどいの丘デイサービスのご利用者様は、ご自身の『得意な事』『やれる事』『やってみたい事』を、お1人お1人にあったやり方で活躍中です！広告で作ったゴミ箱は、地域の方々に大変喜ばれており、設置しているまどいの丘の正面玄関へ在庫確認に行くと、売り切れ状態の時も！豊田市役所下山支所や下山交流館等にも設置してありますので、ぜひお持ち帰り下さい！



ご利用を希望される場合は、（社福）社会福祉協議会下山支所（90-4005）までお問い合わせください。

トヨタ工業学園の生徒さんと交流

生徒さんにパワーをもらいました！
生徒さんも人生の先輩の話真剣に聞いていました。このような交流が、ご利用者様を元気にしてくれます。



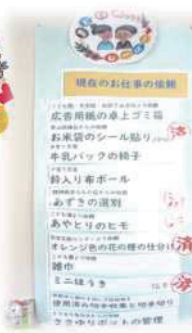
○営業日○
月曜日～土曜日
10:00～16:00

○利用できる方○
介護保険の要支援者または要介護者

※介護保険の申請、認定が必要です。

しもやまで輝くひと Vol.5 『まどいのじ～ば～』

『まどいのじ～ば～』活動では、寄付いただいたタオルを活用し雑巾にリメイク！下山地区の学校に寄付したり、毛糸でアクリルタワシを作製したりと『まどいのじ～ば～』達が長年の経験を活かし活動しています！昔はやれたけど今は…と諦めていた方も参加されるようになり、「私は不器用だから」と言いながらも丁寧に仕上げて下さっています。『まどいのじ～ば～』にお願いしたい！ということがあれば、いつでもお問い合わせ下さい。知識・アイデア満載の『まどいのじ～ば～』におまかせあれ！



※完成までお時間いただきますので、お早めにお問い合わせくださいますようお願いいたします。



講座報告

5/18
(土)

ラリー講座 Lesson①下山ラリー盛り上げ隊
「“ラリー”を学ぼう!」 83人

日本を代表するトップラリードライバーの勝田範彦選手を講師に迎えて、ラリーの基礎知識や魅力、楽しみ方などを学びました。サービスパークでは、ラリーカーや車検場の見学、選手との交流を行い、ラリーを身近に感じることができました。



ささゆりについて学ぼう②

19人(保存会員含む)

6/13
(木)



今年もささゆりが開花時期を迎え、大沼小学校1・2年生は、ささゆりの花の香りや、1か月前に自分たちで目印をつけた芽はどれくらい成長したかを観察しました。

また、9日(日)に、ささゆり下山保存会によるささゆり観賞会が行われ、保護活動の一環で中学生ボランティアとともに開花カウントをしました。



6/8
(土)

自然体験塾 2024in 妙楽寺

昆虫採集とちょこっと標本教室 36人

すっきりと晴れ絶好の虫とり日和のなか、講師に虫が好む植物や場所を教してもらい、昆虫採集を楽しみました。いろいろな昆虫に出会い、触れて、自然の中で小さな命を感じることができました。虫とりの後は、昆虫クイズに挑戦し、講師の作った標本を子どもたちにプレゼント。子どもたちの笑顔が溢れました。



講座案内

アフタヌーンコンサート

日時: 9月8日(日) 15:00~16:30

会場: トヨタテクニカルセンター下山

対象: 下山地区住民

申込: 8月4日(日)10:00~

定員: 60人

詳細はチラシをご覧ください



下山中学生職場体験

6月4日~6日までの3日間、図書業務や窓口業務、ホームページの記事のアップなど、様々な交流館の仕事を経験しました。また、自主グループの活動や



いろいろな会議にも参加して、普段の交流館からは見えない業務も経験し、交流館の運営についてしっかり学んでもらいました。

課題図書のおしらせ

貸出期間 2週間
予約取置期限 1週間
(※課題図書に限る)

本のタイトルは
豊田中央図書館
HP等でご確認ください。

活動報告 展示中

ささゆり
下山保存会
1階廊下にて

8月のロビー展

「織物」展
Licorice

いもたちに伝はせしもやまのいもこれ



栗木地蔵 今昔

絵と文 なかむらこ

さてしもやまの民話41号に書かれた和合の栗木地蔵様が昨年の晩秋令和5年11月6日に栗木を離れ花沢の妙楽寺へ移設安置されたという。和合のちから栗木地蔵の思い出話をお聞きました。

今では見かけなくなりましたが昔、今から60年ほど前まではお経を唱え托鉢して巡る旅の坊様があられ、和合では田植えが終わる暖かくなった頃、決って白い衣の旅の坊様が栗木のお堂にやそ来らしたげな。

坊様は一月二月居らして地蔵を拝みお堂もお庭も掃き、

清めて、食べ物、托鉢で

頂いた物を田舎の湧

き水で炊いて毎日近

隣の里を巡りお経

を唱え托鉢して修業

に励んでおたそうな

里の衆は神明神社の

舞台でうたた寝して

坊様に握りめしをあげたり

野菜や米を持って行く者もあって旅の坊様は大事にしたんだよ。

話に聞けば寒く冬は知多辺りの湯い所を巡ってあったと言われ水たげな。

子どもだったじいちゃんには好奇心で怖かったが覗きに行ったり、旅の坊様からは珍しい話も聞けた

だろうし、人に言えない話を聞いてもらって心の重荷を軽くしたり、まるで六道に迷える人に

寄り添ってくれる地蔵様のような、たのかもし水はないね。



栗木地蔵は二度の火事にも焼け残った地蔵様を胎内に納め、後の台風被害でも栗木の衆で蘇らせられた大切な地蔵様。何としても朽ちさせないために新天地妙楽寺へ移しました。

栗木地蔵様は栗木の衆の思いを継いで旅の坊様のようにこの先新と巻うちらに寄り添ってくれることでしょう。